

R7 年度 レポートの作成に関わって

文責：大塚 憲司（野幌中）

- ☆研究主題にある「変化が激しい時代の中で、自ら社会を創造する子どもの育成」に迫るため、副主題にある「社会的事象への関心を高め、見方・考え方を働かせ、自ら思考・判断・表現する授業」実践を積み上げていきいと考えています。そのために研究の方向性を「育てたい生徒像」と「目指す授業像」で端的に示している。「**自ら社会を創造することができる生徒**」を育てることがゴールであり、そのゴールに迫るためには「**変化が激しい時代を実感できる生徒**」となっている必要があると考えています。（R7 研究概要をご覧ください）
- ☆今年度の研究では特に「**導入の工夫**」に関わる授業実践を共有していきたいと考えています。例えば、ICT の効果的な活用、単元デザインの工夫、教材・教具の工夫、思考ツールの活用等、効果的な手立てがあげられます。
- ☆「**導入の役割**」＝学びをスタートさせるための「**燃料**」であり、「**導入の工夫**」＝「**燃料**」をどのように生徒に与えるか、生徒にどのように生かす道筋を示すか等の手立てを工夫することであると考えています。
- ※「単元の導入の工夫としてもよいし、本時の導入の工夫としてもよい。どの場面であっても「導入の工夫」がどう効果的に働いたか意識して実践をしていただきたいです。

【レポートの形式について】

- ☆**形式は自由**とします。指導案形式やレポート形式等、先生方がご自身の実践を表現しやすい形を選択してください。
- ※石中社 HP にアップされている「レポート様式および内容」に沿ったレポートでも構いません。
- ☆二次研の分科会の中で、レポートをもとに特に「導入の工夫」について説明ができるよう準備をお願いします。
- 研究授業、分科会の討議の柱としては以下の通りです。
- ⇒生徒が切実性・必要性を感じ、学びに向かう気持ちを高めることができたか
 - ⇒生徒の学びに向かう気持ちを、「知識・技能の習得」「社会的な見方・考え方を働かせた思考・判断・表現」につなげることができたか
 - ⇒「導入の工夫」が単元や本時の学習（展開・まとめや振り返りといった終結）に効果的に生かされていたか